

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----------|--------------|
| 園名 | こどもヶ丘保育園根岸園 |
| 活動日時 | 令和7年2月20日(木) |
| クラス名(年齢) | ぱんだ組(3歳児) |
| 年間テーマ | 光 |

1.活動テーマ

〈テーマ〉

素材による光の違い

〈テーマの設定理由〉

前回に様々な素材を使って製作をし、そこにブラックライトや懐中電灯で光を当てた。この活動を通して、子どもから様々な発想が生まれたので、前回と同じ設定で材料を増やして行う。

2.活動スケジュール

10名参加。

前回の製作物をもとに、子どもの発想を生かせるような材料を増やす。
追加した製作物を飾り、光を当てて前回との違いを楽しむ。

3.環境をデザインする

クレヨンと蛍光ペン、懐中電灯とブラックライト、段ボールで作った水槽、平面のカラーセロファンを貼った水槽、ペットボトル、水。
子どもが好きな素材を自由に選べるようにする。

4. 探求活動の実践

〈活動内容〉

前回の子ども達との振り返りの際に、「水族館みたい」という発想があった。
この発想をもとに、前回と同じ環境設定に加えて、新しく用意したセロファンで作った水槽と色水入りのペットボトルを用意する。
保育者が水槽に手本に描いて見せ、自由製作の時間を設ける。
部屋の電気を消し、ブラックライトで天井や壁、床、水槽、ペットボトルにブラックライトを当てる。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

| 子どもの言葉・姿 | 写真 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が魔法のクレヨンと普通のクレヨンに違いはあるか問いかける。 ・保育者「魔法のクレヨンと普通のクレヨンの違いはどうか？」 子ども「暗くしたらもっと見えるよ」 ・保育者がブラックライトをペットボトルに当てて見せる。 子ども「ここ光ってる(光の影を指さす)」「青い水だったのに(光を当てたら)水色になったよ」 ・保育者がボスカペンとクレヨン、水槽つくりたいなど、発言があったため、段ボールで立体、平面2種類用意する。 子ども「うわー!クラゲ描きたい」「海の生き物描くの」「わたしは紫の真珠を描いてるよ」 「みてクラゲ沢山描けたよ」「亀作りたい」「マグロも描きたい」「りゅうぐうのつかい描いていい?」 「水族館にいれないな」 ・保育者がブラックライトを当てて見せる。「どんな感じに光るかな?」 子ども「すごーい!」「なんか床も光ってる」「かわいいねー」 ・保育者がブラックライトを子どもに渡す。 子ども「ぱんだひからないねー(クレヨン)」「上もやってみたい」「水族館のおまつりみたいだね」「あれさ、本当に魚じゃん」「光る水族館大成功だね」「(水槽を見て)ねー!光ってるよ」 ・保育者「やってみてどうだった?」 子ども「光らせるのが楽しかった」「自分で塗った色がね懐中電灯だと水色なのに、ブラックライトだと塗っていない色だったよ」「オレンジ、黄色、魔法のクレヨンで描いたらきれいだったよ」「もっとやりたいー!」 ・保育者が次は何を作りたいか問いかける。 子ども「金魚!」「ブラックバス」「大きいじんべいザメ」 |     |

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・二度目の活動が始まると「〇〇描きたい」「作りたい」と製作に意欲的な姿勢を見せていた。製作時間を設け、ある程度完成してから光遊びに切り替えた。三人ずつ交代でじっくり観察できるようにすると、自分が描いた物や気になる場所を照らしたり、気付いた事を声に出して教えようとしていた。その声に気付いて子ども同士と一緒に発見を喜んだり観察する様子が見られ、なぜ光るのか問いかけていった。前回と同じように光った際の色に興味に向いていた様子だった。
水族館のイメージが広がる環境は整ったので、次回は光らせて遊ぶ時間を十分に設けていきたい。